

全国高等学校野球選手権大会の報道分析

～朝日新聞「はま風」～

News analysis of a national high school baseball championship

～Asahi Newspaper 「Hama Wind」～

1K03B008-4 氏名 芦田啓太

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 宮内考知 先生

1、緒言

私が小学2年生の時、私の従兄弟が所属していた関西高校が第65回選抜高等学校野球大会に岡山県の代表として出場した。その頃から私は、高校野球に対して非常に興味を持つようになり、高校野球の大会を見に行ったり、新聞記事を切り抜きスクラップしたりしていた。現在でも高校野球に対しては非常に興味があり、テレビや新聞で数多くの高校野球の報道を見ている。そして、今年の第88回全国高等学校野球選手権大会の朝日新聞の中にある「はま風」の記事を読んでいて、特徴的な記事であると感じた。そこで私は、「はま風」の記事でどのような高校野球像が語られているのかを分析してみようと考えた。

本研究の目的は、「はま風」の記事を用いて

- ①「記事の内容」
- ②「勝者、敗者のどちらが取り上げられているのか」
- ③「取り上げられている対象（レギュラーかレギュラー以外か）」
- ④「記事の中で使われている言葉」

の4つを分析し、「どのような高校野球像が語られているのか」、「その背景には何があるのか」ということを分析していくことである。

2、高校野球

日本人が初めて野球を行なったのは、1873年であると考えられている。そして、日本に伝わってきた当初は「ベースボール」という言葉であったが、一高卒業生であった中馬庚がテニスの翻訳語である「庭球」から「野球」という言葉を作り出したようだ。一高とは現在の東京大学の前身である。この一高から全国へと野球は普及拡大していった。その過程で、1911年「野球と其の害毒論」という野球に対する批判が「東京朝日新聞」行なわれた。しかしその4年後の1915年に、同じ系列の「大阪朝日新聞」から、現在の夏の全国高等学校野球選手権大会を自社で開催するという報道がなされた。この背景には、毎日新聞との熾烈な競争から一歩抜け出そうという、意図があったようだ。

3、スポーツとメディア

大阪朝日新聞が全国高等学校野球選手権大会を開催したように、新聞社などのメディアがスポーツイベントを開

催するようになったのはごく自然の流れのようだ。イベントがマスメディアによって報道されることでイベントたるものとして存在することが出来る以上、マスメディア自身がイベントを開催する方向に向かうことは避けられないということである。

4、「はま風」の分析

「はま風」は1982年から朝日新聞の中で始まった連載である。「はま風」の記事の分析した結果、以下の特徴が見られた。

- ①「記事の内容」には、「挫折→努力→再起」の傾向があった。
- ②「勝者、敗者のどちらが取り上げられているのか」は、「敗者が取り上げられている割合」が平均87%。
- ③「取り上げられている対象」は、「レギュラー以外が取り上げられている割合」が平均70%。
- ④「記事の中で使われている言葉」は、「涙」、「怪我」、「夢」、「悔いなし」など。

5、考察

「はま風」は「感動」を私たちに与える「物語」となっている。その感動を引き起こすために、「はま風」には「挫折→努力→再起」という私たちの共感を呼び起こしやすい一連の「物語性」が組み込まれている。そして、その物語の中で、「敗者」、「レギュラー以外」、「夏の高校野球のイメージを作る言葉」を意図的に用いることで、美しく感動的なイメージを作り上げている。そして、「物語」、「敗者」、「レギュラー以外」、「言葉」の4つが互いに補完しあい、よりいっそう強固な「感動ストーリー」を作り出している。その背景には高校野球人気を高めたいという、主催者である朝日新聞社の意図があると考えられる。

反省点・改善案としては、「朝日新聞」以外の新聞社で高校野球像の語られ方にどのような違いがあるのかを調べてみると、より違いが見られるのではないだろうか。また、同じ高校生のスポーツである「高校サッカー」などとも、述べられ方にどのような違いがあるのか比較してみると良いだろう。